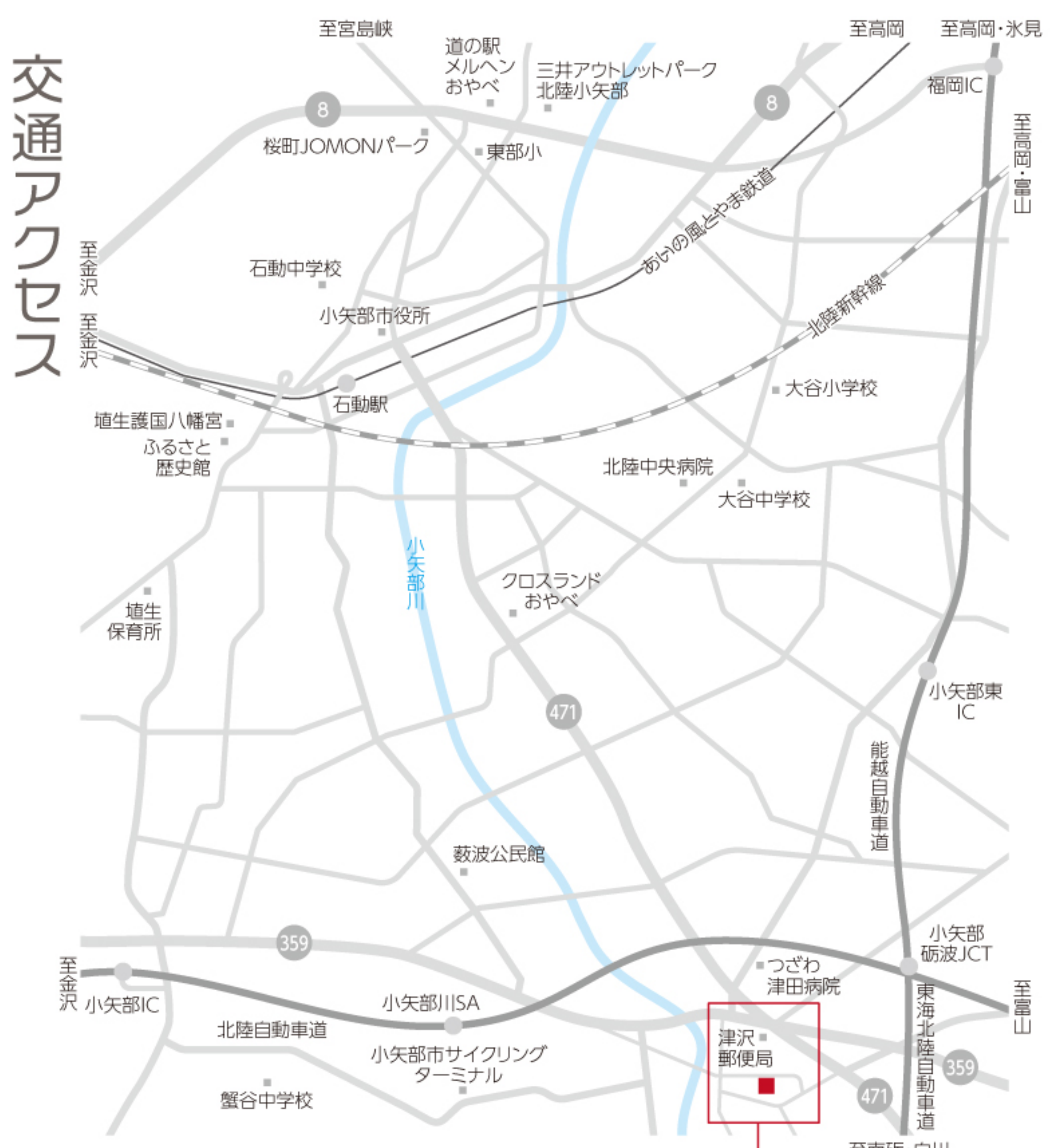


津沢あんどん ふれあい会館



津沢あんどんふれあい会館まで

三井アウトレットパーク 北陸小矢部	20分
クロスランド おやべ	12分
あいの風とやま鉄道 石動駅	15分
北陸自動車道 小矢部IC	10分
能越自動車道 小矢部東IC	8分

【ご利用案内】 職員滞在時間 10:00~16:00
 ご利用時間 9:00~21:00(要予約)
 〈多目的交流室・体験室・研修室・会議室〉

【休館日】 月曜日(休日の場合はその翌日)、
 12月29日~翌年1月3日

〈ご予約・お問い合わせは〉
 〒932-0113 富山県小矢部市岩武921 電話 0766-61-3531
 E-mail: andon@p1.tst.ne.jp FAX 0766-61-3531

夜高行燈の起源

慶安5年(1652年)、越中国(現在の富山県)福野の鎮守の氏神として伊勢神宮から御分霊を勧請した際、その御分霊の行列が加賀(現在の石川県)と越中の国境にある倶利伽羅峠にさしかかった頃に日が暮れてしまいました。
 この報せをうけた町民が、道しるべ用の行燈を手に持ち、御分霊の行列を出迎えたことが「夜高行燈」の起源であると伝わっています。
 その後、田植えが終わり、砺波地方の方言で「ヤスゴト」と呼ばれる日に、農作業を休んで神社に参詣して五穀豊穰・豊年満作を願う「田祭り」の行事と結びついたことが「津沢夜高あんどん祭」の由来であると考えられています。



津沢の街中に「ヨイヤサー!」の掛け声が響き渡る

毎年6月第1金・土開催
津沢夜高あんどん祭

高さ約7m、長さ約12mの武者絵の
大行燈が激しくぶつかりうことから
「喧嘩夜高行燈」とも呼ばれる。
相手側の山車や吊り物を壊す
「ぶつかり合い」は迫力満点。



多目的交流室

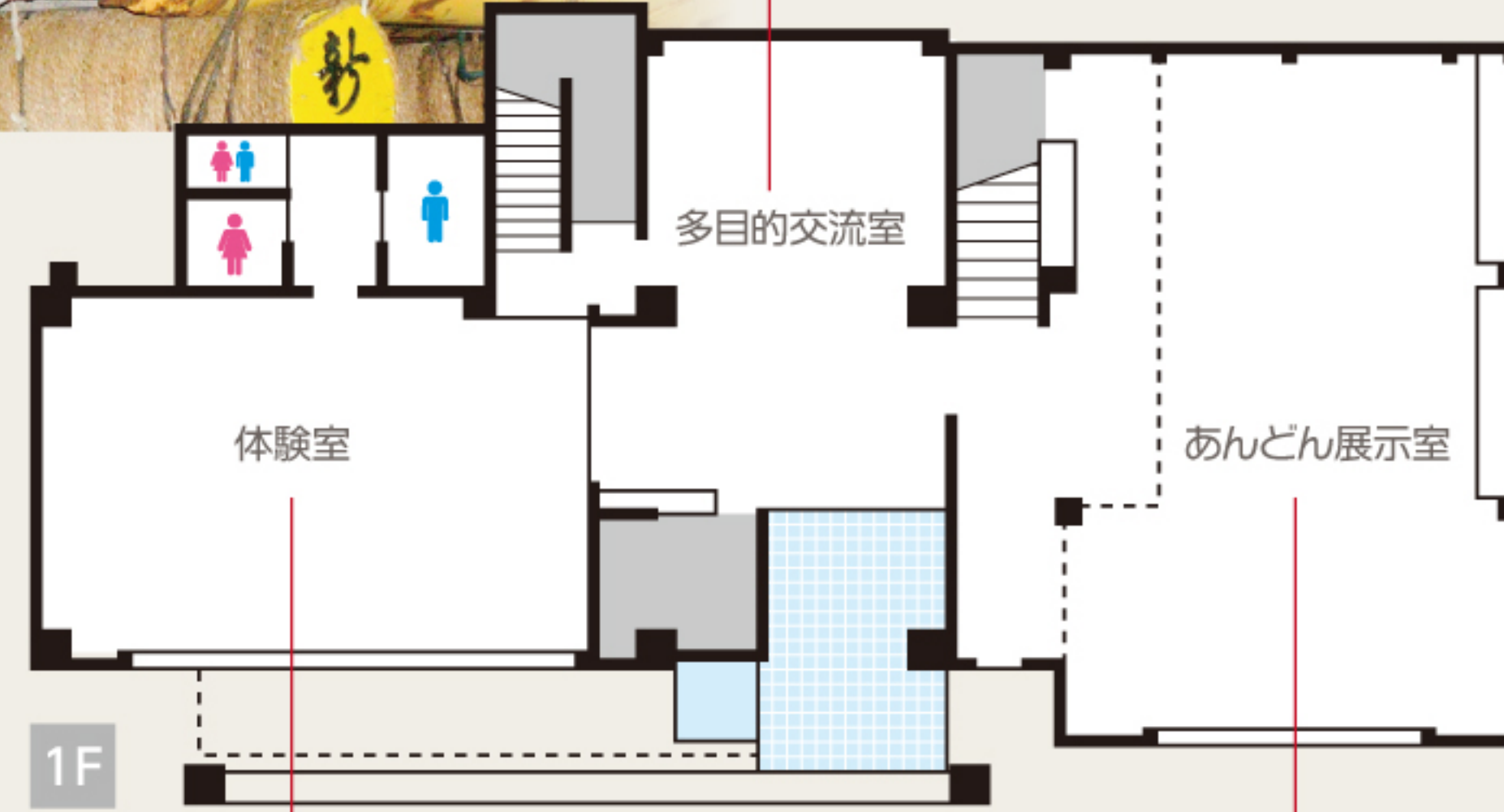
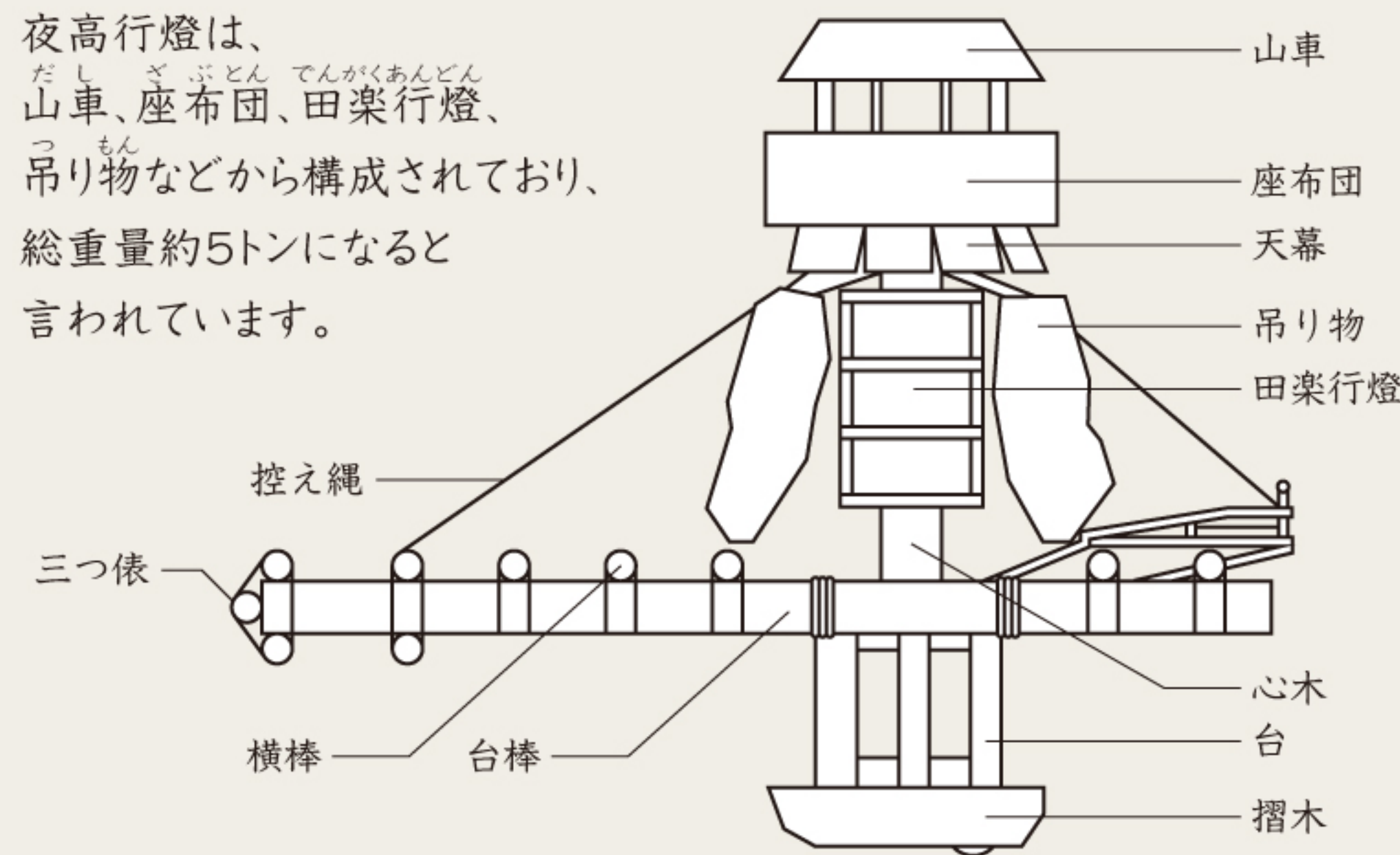
津沢夜高あんどん祭の映像も鑑賞
できるコミュニティスペースです。



研修室

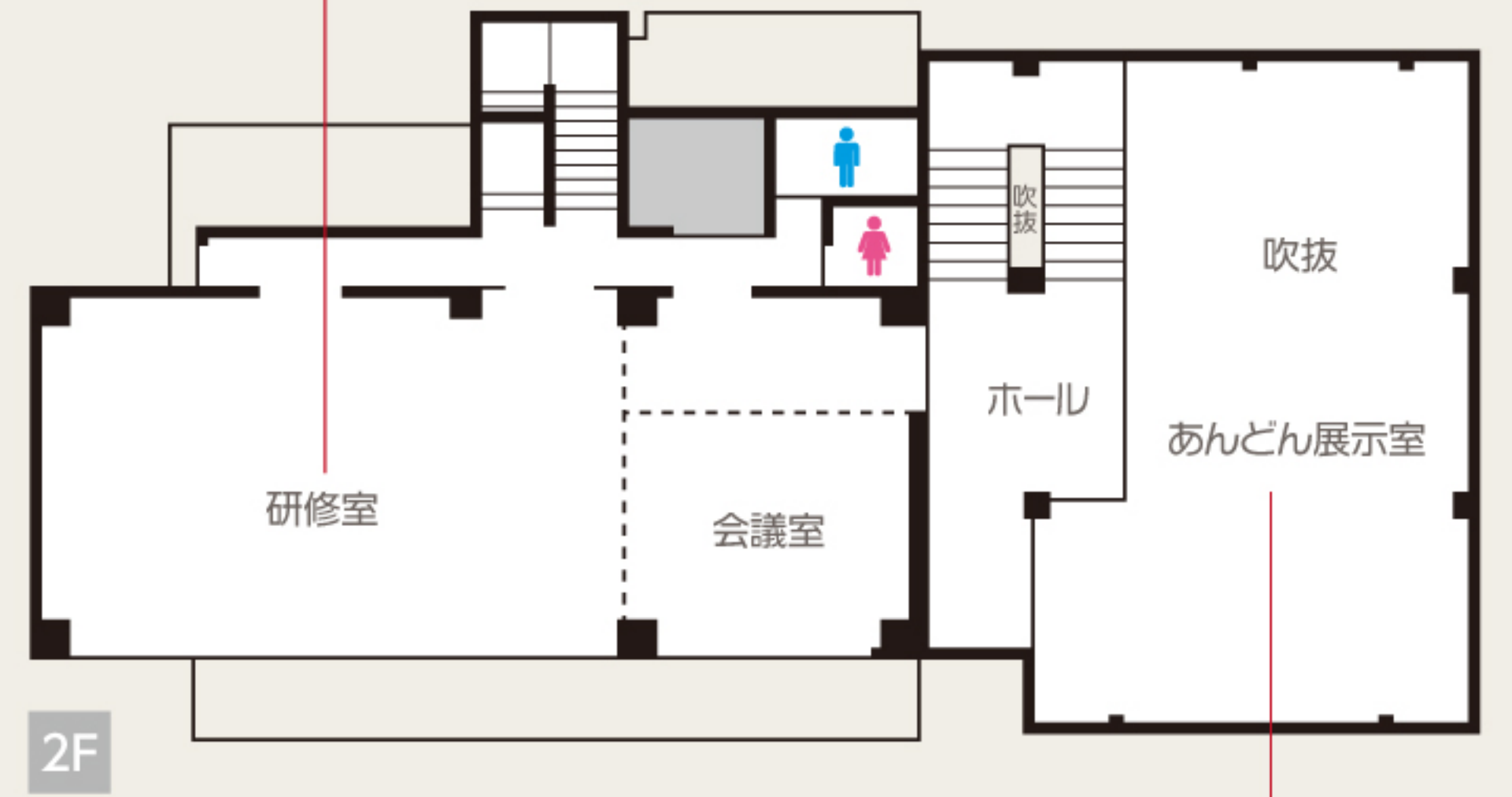
室内は広く、会議や講演会など、様々な用途に利用
することができます。

夜高行燈は、
だし、さぶどん、でんかくあんどん
山車、座布団、田楽行燈、
つもん
吊り物などから構成されており、
総重量約5トンになると
言われています。



体験室

あんどんの制作体験や太鼓の練習などが
行われるスペースです。



山車・吊り物は細い竹ひごを用いて、龍、御所車、
花籠、牡丹、蝶、鶴などの骨組みをつくり、
その上に和紙を貼ります。
そこに蠟引きを施し、赤・黄・紺などの鮮やかな
食紅で彩色して仕上げます。
完成までの約三ヶ月間、
毎晩遅くまで、すべて
手作業により夜高行燈が
つくられます。



あんどん展示室

吹き抜けのフロアには、実際に
津沢夜高あんどん祭で使われている
大行燈が展示されています。

